

オープンフェイスも、極めればこうなる。

URBANE

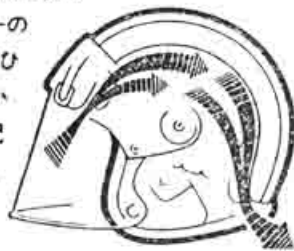
都会的な洗練された
スタイルを今、URBANEに

外国では、ジェット型ヘルメットをオープンフェイスと呼びます。かぶった時の解放感をよく表現した言葉だと思います。だからフルフェイスが主流となった今日でも、根強いファンがいるのでしょう。もう一つ、メガネをかけたままでもかぶれるのもオープンフェイスの特長。しかしそんなオープンフェイスも、これまでのものだと何かフルフェイスより格落ちみたいな感じで、今ひとつ幅をきかせられないような点がありました。それだけにフルフェイスにひけをとらない風格のある、かつ洗練されたスタイルのオープンフェイスを作ってみようとは考えました。そして完成されたのが「アーバン」。その名の通り、いかにも都会的に洗練されたフォルムができあがりました。

デザイン上のポイントは、
バイザーフレーム

バイザーフレームはポリカーボネート製ですが、帽体と一体感のあるフォルムにまとめてみました。ただポリカーボネートだと輸入ヘルメットによくあるように金型の線が一本、中心部に入ってしまう。これが入ると、どうしても安っぽい感じがします。そこで手間ヒマのかかることですが、後加工で磨いてなめらかな面に仕上げました。また一度キズがつくと汚くなってしまいうもの、ポリカーボネートの欠点。せつかくのバイザーがうす汚れてたそがれてきたんじや「アーバン」も魅力半減です。そこで思いきって、高価なハードコート処理をほどこしました。その分、価格が高くなりましたが、深い光沢を長く保てるので結局は喜んでいただけることでしょう。

アゴ紐を止めるリベットの頭を、その厚み分だけ帽体にしずめました。万の際、これがひっかからないようにとの配慮からです。



内装は、M-Xでも
実績のあるVENT仕様

すぐれたベンチレーション効果で、おでこのほうから入った風がうしろに抜けるため、ムレを防止します。また布地も特殊な吸水性布地を使用しました。吸いとった汗を布地の裏側にもっていく特性があるので、いつでもサラッとした感触が楽しめます。かぶり心地にも充分気をつかいました。オープンフェイスはフルフェイスにくらべ、どうしても安定感に欠けるきらいがあります。でも「アーバン」では、フルフェイスにも負けないような深いかぶり心地を実現させました。それだけでメガネをはずさなくてもかぶれます。こうしたよさも、きっと納得していただけることでしょう。

高速時の安全性など
数々のきめ細かな配慮

シールドはポリカーボネート1.5mm厚の成型品。もちろんキズがつかないようSSR加工したものです。

バイザーフレームに3本のネジで取付けられているので、シールドのみで交換できます。そしてラチェット機構を介して、カチッ、カチッと上げ下げできます。またこのように大きなシールドは、高速で横

手を抜かなかつたことからの
“悩み”も正直に

このように特長がたくさんある「アーバン」ですが、悩みもあります。バイザーフレームまでもハードコート処理したほど、手を抜かずにつけたのでコストが高くなったことです。もっと手を抜いて安くすることも考えましたが、文字通りアーバンな風格を保ちながら長く使っていただけることを考えれば、結局はここまでベストをつくしたほうが喜んでもらえるものと信じています。

OPEN FACE

を向いた時などあおられてハネ上がると危険なため、安全装置としてスロットル操作のじゃまにならない左側だけに、軽く止められる高さ2.5mmのスナップを設けました。通常の走行で止める必要はありませんが、この安全装置としてのスナップもらしい気配りです。もちろんバイザーフレームと帽体の間はシールされて、雨水が落ち込まないようにしています。ヘルメットの本体は仕様のFRPですが、これにも小さな気配りがされています。

「アーバン」で心配なのはもう一つ、盗難に無防備なこと。取りはずし可能なバイザーだけでも高価なものです。だからヘルメットロックにつけたまま、放置するようなことはしないでください。放置しないで、いつでも、むしろ手に持って歩いてもう一つの絵になるような洗練の極をゆく「アーバン」です。カフェレーサーからヴィンテージバイクまで、どんな車にもマッチして都会感覚をかもし出す「アーバン」。きっとご満足いただけるはずです。

